医学部専門予備校 YMS
医学部進学予備校 メビオ　医学部専門予備校 英進館メビオ 福岡校

解答速報

東北医科薬科大学　英語

2026年 1月 24日実施

【Ⅰ】

問 1　④　　問 2　②　　問 3　④　　問 4　①

問 5　③　　問 6　①　　問 7　③　　問 8　④　　問 9　③

問 10　①　　問 11　④　　問 12　②　　問 13　③

問 14　④　　問 15　③（④→②→③→①）

はしかが免疫細胞へもたらす害とその機序について述べた英文。

問 1　the real harm については第 1 段落第 3 文で述べられており，特にコロン以降で具体化された「免疫系への攻撃」という内容を言い換えた選択肢を選べばよい。

問 2　immune amnesia についても第 1 段落第 5〜6 文で定義されているため，ここで述べられている「過去に感染した病原体の記憶が消えてしまう」ということを言い換えた選択肢を選べばよい。

問 3　benign「穏やかな，害のない，（腫瘍などが）良性の」は医学部受験生ならば知っておいてほしい単語。それさえ分かれば，下線部を「害のないものからは最も程遠いもの」と直訳するだけで容易に解答へ辿り着ける。

問 4　第 2 段落第 3 文がそのまま根拠となる。vulnerable は，本文にある susceptible からのパラフレーズ。

問 5　問 2 が解けていれば，はしかへの罹患後に免疫細胞の記憶が「増える」のは明らかな矛盾ということで自動的に解ける問題。

問 6　下線部の直後，第 3 段落第 2 文で，はしか以外の病気による死をも防ぐことができるという利点について述べられている。

問 7　keep 〜 at bay「〜を寄せつけない，〜に影響されない」は頻出のイディオム。

問 8　第 3 段落の最終 2 文で，免疫細胞にある CD150 と呼ばれるたんぱく質を利用して感染を拡大させていく機序が説明されている。

問 9　空所③の直後に From there「そこから」という表現があるが，現状のままでは「そこ」に該当する場所が明示されておらず不自然である（仮に the immune system を指しているのだとしても，そこから「咳が出る」というのはおかしい）。与えられた文をここに補うことで，respiratory tract「気道」から咳が出るという流れになり論理的に成り立つ。

問 10　はしかのウイルスが，「弱った」免疫細胞を好んで感染するとする記述は第 4 段落中に存在しない。

問 11　第 5 段落第 2 文で，肺炎や耳への感染をもたらす可能性について言及されている。

問 12　fend off 〜 は「〜をかわす，回避する」という意味のイディオムで，fight off に近い。stay away from とやや迷うかもしれないが，こちらは「（危険なものに）近づかない，（害のあるものを）避ける」という意味なので，免疫細胞が病原体に近づきもせず逃げているかのような言い方になり不自然。

問 13　第 6 段落第 3〜4 文に，この共同体内では親たちが子にワクチンを打たせていなかったためにはしかが流行していた（ゆえに研究対象として都合のよい集団であった）」こと

が述べられている。
問 14　第 6 段落第 8〜10 文で，はしかの流行後に子供たちの免疫細胞がどのように変化したのか見たかったのだと述べられている。
問 15　第 7 段落の論旨が理解できていれば無理なく埋まるはずだが，そもそも穴埋めとして不自然な選択肢が多いため，このパッセージを単体で読むだけでもおおかた推測できてしまう。易問。

【Ⅱ】

問 1　②	問 2　④	問 3　①	問 4　③	
問 5　②	問 6　④	問 7　③	問 8　①	問 9　①
問 10　③	問 11　②	問 12　③	問 13　②	
問 14　③	問 15　②（③→④→②→①）			

[解説]
近年の AI によるインターネット上でのフェイク情報の流布について論じた英文。
問１　正解は②「(彼女は) ファンのために画像を作るため AI を用いた」である。このような内容は述べられていない。第１パラグラフにおいて，①は第１文，③は第３，４文，④は第２文において，それぞれ言及されている。
問２　正解は④「彼らは，彼女を公然と支持した」である。第１パラグラフ最終文の内容から，ファンは彼女を支持したことが読み取れる。
問３　正解は①「悪辣な」である。オンライン上での人格攻撃の性質を考えてみればよい。
問４　正解は③「ディープフェイクを使った大統領の録音でもって有権者を誤導する」である。第２パラグラフの In January 〜で始まる文において，このような事件があったと述べられている。
問５　正解は②「Marine Policy 誌の編集者が，そのような記事は存在しないと確認した」である。第３パラグラフ第４文の内容から読み取れる。
問６　正解は④「フェイク記事は，雑誌において公表されたかのように AI で作成された」である。第４パラグラフ最終文の内容から読み取れる。mock up「似せる」という表現に注目。
問７　正解は③「しばしば誤っていたり誤解を生んだりする答えを出す」である。第４パラグラフ第３文参照。
問８　正解は①「それらを特定する現在のツールは，将来的には有効なままではないかもしれない」である。第４パラグラフ最後の２文で，「(AI によるフェイクとそれを見破るツールは) 熾烈な競争となり，フェイクニュースを削除したい側が追いつくのに四苦八苦するかもしれない」と述べられている。
問９　正解は①「相手よりも進んだ道具を開発する競争」である。問８でも解説した通り，フェイクを作成する AI とそれを見破るための技術との競争ということである。

問 10　正解は③である。「しかし，AI は昨年だけでも随分と進化した」の直後に，「今や，ほとんど誰でも～作成できる」という文が来るのが自然である。
問 11　正解は②「説得力のある誤情報を作成するのがいかに容易であるか」である。第５パラグラフの内容を受けて，第６パラグラフ冒頭において，それがいかに容易か研究者は発見したと述べられている。
問 12　正解は③「投稿した」である。オンライン上で共有したということは，「投稿した」ことに他ならない。
問 13　正解は②「多くが本物のニュースウェブサイトのような名前を持っている」である。第７パラグラフの最後から数えて２番目の文参照。
問 14　正解は③「AI によって生成された当てにならないニュースウェブサイトの数は，2023 年５月から８か月も経たずに 12 倍以上に増加した」である。グラフを読み取ると，49 から 750 に増加しており，12 倍以上である。
問 15　正解は②「修正」である。順に③「収集物」，④「予測」，②「修正」，①「過程」が入る。

【Ⅲ】
問 1　③（→are structured）
問 2　①（→順接のディスコースマーカーに）
問 3　④（→according to the language）
問 4　②（→this hypothesis）
問 5　④（→that was indistinguishable to them）
問 6　②（→the number）
問 7　①（→many shades of color）
問 8　②（→regarding）
問 9　③（→do not indicate）
問 10　③（→is）
[解説]
問 1　<u>It</u>(S) also <u>assumes</u>(V) <u>(that) S' V'...</u>(O) という構造であるはずなのに，assume の目的語たる that 節の中に S＋V 構造が存在しない非文となっている。
問 2　問 1 と問 2 のパッセージは逆接の論理関係にはなっていないため，On the contrary「それどころか」は文脈からして不適切。順接のディスコースマーカーに改める必要がある。
問 3　language に対して (that) they speak という関係代名詞節の修飾が起こっていることから，この language は特定の言語を指しており，定冠詞 the を付す必要がある。なお，問 1 の④にも全く同じ表現があるが，こちらはより抽象的な言語という概念を指している不可算名詞であると考えれば無冠詞で問題ない。

問 4　hypotheses は hypothesis の複数形であるため，this との不整合が起こっている。
問 5　ここに含まれる動詞に対する主語は any quantity (larger than that) であるため，用いる be 動詞は were ではなく was が正しい。
問 6　難問。〈the＋比較級〉構文が用いられていることは明白だが，本来 the larger(C) a number involved(S) is(V) という文型であるはずのところ，be 動詞が省略されて the larger a number involved という形になっていることをまず見抜く必要がある（involved は動詞ではなく，a number を修飾する過去分詞)。ただ，a number と不定冠詞で書かれている点に違和感を覚える。この場合は「(数学的な）数（という概念)」を表すが，ここでの文脈は「(物の数を数えるときに）1 つ，2 つまでは数えられるがそれ以降は『たくさん』という認識になる」ことを述べたものであるから，「(物の）数」を表す the number とした方が適切だと考えられる。
問 7　much は不可算名詞にしかかからないため，shades という複数形に対して用いられているのは誤りである。
問 8　過去分詞 regarded では，その後ろに languages という名詞が存在することを説明不可能で，regarding「〜に関して」と改める必要がある。
問 9　問 1 と同種のミス。Lenneberg and Brown(S) argue(V) that S' V'...(O) という構造であるはずなのに，argue の目的語たる that 節の中に S＋V 構造が存在しない非文となっている。
問 10　この動詞に対する主語は The language of thought hypothesis であるから，用いる be 動詞は are ではなく is が正しい。

【Ⅳ】
問 1　⑤－③（②⑦⑤⑥④③⑧①)
問 2　⑦－③（⑤⑩⑦⑨⑧③①⑥②④)
問 3　⑦－②（⑤①⑦⑧⑥②④③)
問 4　④－⑥（③⑧④①⑤⑥⑦②)
問 5　⑥－①（⑤⑧⑥④②①③⑦)
[解説]
いずれも和文が付されており，過度な意訳などもないため，和文の示す通りに並べ替えれば正答に至る。
問 1　(Huntington's disease is a neurodegenerative genetic) disorder caused by a faulty version of a single gene(.)
問 2　(So anyone who has a) parent with the disorder has a 50 percent chance of inheriting (it.)
問 3　(In 2017, a woman won the right to sue the doctors who had earlier) tested her father and found him positive for (the disease but had not informed her.)

ここでの positive は「陽性の」を表す形容詞。

問 4　(Their inaction arose) from the father's insistence that the test result be (kept confidential.)

insistence は insist の名詞形であるから，その後ろの that 節内は S＋(should)＋V 原形の形をとる。

問 5　(What) can we conclude about any responsibilities that accompany (knowing?)

accompany は「～と同伴する，～と同時に起こる」という意味の他動詞であることに注意する。

【総評】

大問構成・分量ともにほぼ例年通り。大問Ⅰ・Ⅱは昨年度に続きすべて英問英答であった。例年に比べると，大問Ⅰは医学色が強め。従来は本文中にやや専門用語を含みつつも，仮にその語を知らなくとも支障なく解ける設問が大半であったが，本年度は医系単語のストックがそれなりにある状態でないと中々きつかったであろう。ただ，大半の問いにおいて参照すべきパラグラフが明示されているのは例年と同様。選択肢も（語彙の壁にさえぶつからなければ）判断に迷うようなものは少なく，得点源とすべきである。一方，大問Ⅲの誤謬指摘問題は昨年度に比べやや難化。問 3・7 はやや細かい知識が必要で，問 2 は純粋な文法・語法の問題ではなく文脈的に不適切であるという観点から解を導く必要がある。一方で問 1・5・9・10 は明らかな非文や単複の不整合を含むので，落としたくない問題。大問Ⅳは例年通り和文を与えられての語句整序問題で，ごく基本的なレベルなため 1 問も落とさないことが望ましい。一次通過ラインは，昨年度からやや引き下げ 65～70%程度か。

昭和医科大学医学部Ⅱ期模試 2026.2.23(月)
科目　英／数／化／生／物　申込締切　2月19日（木）15:00
会場　東京／大阪／福岡

聖マリアンナ医科大学[後期]模試 2026.2.18(水)
科目　英／数／化／生／物　申込締切　2月14日（土）15:00
会場　東京／大阪／福岡

料金　8,800円（税込）

※内容は変更になる場合がございます。最新の情報はホームページよりご確認ください。

医大別直前講習会 2025-2026
■ 川崎医科大学
■ 東京医科大学
後期・Ⅱ期
■ 獨協医科大学
■ 聖マリアンナ医科大学
■ 日本大学
■ 埼玉医科大学
■ 昭和医科大学
■ 日本医科大学

◆各講座の時間割・受講料・会場についてはHPでご確認ください。

26 年度解答速報はメルマガ登録または LINE 友だち追加で全科目を閲覧

本解答速報の内容に関するお問合せは
医学部専門予備校 YMS heart of medicine
☎ 03-3370-0410 https://yms.ne.jp/
東京都渋谷区代々木 1-37-14
医学部進学予備校 メビオ 0120-146-156 https://www.mebio.co.jp/
医学部専門予備校 英進館メビオ 福岡校 0120-192-215 https://www.mebio-eishinkan.com/
メルマガ登録
LINE 登録